



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのフィナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい
投信 なるほど
リッパー

効率重視で本数減少傾向

繰り上げ償還で6000本割り込む

投資信託にリストラの嵐が吹いているようです。国内で販売されている公募投資信託は、MRFなどの日々決算を行う投信を除いて、6000本を割りました。ピークの2018年1月末は6151本でしたが、徐々に減少して20年3月末時点で5985本になりました＝棒グラフ。また、株式オープン（追加型）投信は、19年2月には5805本ありましたが、20年3月末時点で5723本に減ってしまいました。

投信の本数は、新しく設定した投信より償還した投信の本数が多ければ、減少します。20年3月は国内で新規設定された投信が49本、償還は67本でした。統計がある03年1月以降、月間に60本以上を償還した月は6回だけです。

3月に償還した投信が多かった理由の一つは、償還日を迎える前に運用を終了させた株式オープン投信が多かったことです。一部の運用会社がまとまった数の投信を繰り上

げ償還しました＝半円グラフ。繰り上げ償還とは、償還日を迎える前に運用を終了し、投資家に資金を返すこと。投信は、投資家からの解約などによって純資産が極端に少なくなると、運用の効率が落ちてしまい、投資目的に沿った運用が難しくなります。そこで、運用会社は償還させた方が投資家にとって有利という理由で、繰り上げ償還を検討します。

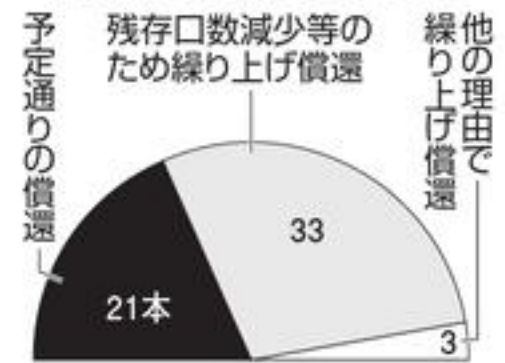
とはいえ、繰り上げ償還は、運用会社が勝手に決めるものではありません。投資家との合意が必要です。運用会社が残高の小さい投信を繰り上げ償還の候補に挙げると、保有する投資家に書面で賛否を問います。投資家の賛成によって繰り上げ償還が決まれば、1～2カ月後に時価で現金化されます。

投信の償還日は、約款や目論見書の「信託期間」の欄に示されています。通常、その次に「繰り上げ償還」の欄があり、「受益権口数が一定数

を下回ると繰り上げ償還をする場合がある」などと書かれています。具体的に10億口や30億口などと明記した投信もあれば、数字を示さず状況に応じて判断すると定めている投信もあります。

また、ごく少数ですが、繰り上げ償還の条件に、口数以外の基準を設けた特殊な投信もあります。投信の基準価額が、参照値や基準値などと呼ばれる値や基準価額の一定割合に定めた水準に達すると、自動的に償還が決まる投信です。この中には、3月の相場急落でこの基準に達し、4月以降の繰り上げ償還が決定した投信もあります。

3月は繰り上げ償還が多かった



2020年3月に償還した株式オープン投信57本について、償還の理由ごとに分類

